

**基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する**  
**目標が達成された姿(1) 多彩な地域特性を活かした景観や拠点が形成されている**

**目指す成果 ① 拠点の整備が計画的に進んでいる**

▶ 計画的な土地利用に基づき、地域特性に応じた拠点の整備が進んでいます。

成果の達成度を測る指標							
指標名	単位	基準値	経過値				目指す値
A 鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合	%	17.2 (2018)	19.0 (2019)	20.4 (2020)	(2021)	(2022)	17.2 (2022)
B 丘陵部、港湾部などの地域の特性を活かしたまちづくりが進んでいると感じている市民の割合	%	20.9 (2017)	19.8 (2018)	22.7 (2019)	(2020)	(2021)	20.9 (2021)
C 市内鉄道駅(7駅)の1日平均乗車人員	人	46,542 (2017)	46,732 (2018)	45,079 (2019)	(2020)	(2021)	47,000 (2021)
D 丘陵地区整備事業の進捗率	%	15.2 (2017)	18.4 (2018)	22.4 (2019)	(2020)	(2021)	100.0 (2021)

行政の役割分担の方向性	事務事業名(2019)	担当部(2019)	担当課(2019)	関連指標	関与の度合
ア 市の中心部にふさわしいまちづくりを進める	中心市街地活性化事業	総合政策部	企画課	A	A
	岸和田TMO支援事業	魅力創造部	産業政策課	A	A
	街づくり支援事業	まちづくり推進部	都市計画課	A	A
イ 駅の周りを安全で利便性の高い空間にする	市街地形成事業	まちづくり推進部	市街地整備課	A・C	A
	自転車駐車対策事業	建設部	建設管理課	A	C
	自転車等駐車場管理事業	建設部	建設管理課	A	C
ウ 港湾機能の充実を図る	港湾振興事業	魅力創造部	産業政策課	—	—
	港振興協会助成事業	魅力創造部	産業政策課	—	—
エ 田園区域における拠点整備を進める	丘陵地区整備事業	まちづくり推進部	丘陵地区整備課	D	A

目指す成果に係る経費	単位	2017	2018	2019	2020	2021
総コスト	千円	981,391	1,570,131	455,661		
事業費	千円	871,435	1,454,307	352,569		
人件費	千円	109,956	115,824	103,092		

目指す成果に係る現状と課題	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>●久米田駅・春木駅周辺のまちづくり推進 駅周辺地域にふさわしい安全安心で利便性の高い地域とするため、JR久米田駅周辺において「久米田駅東西アクセス改善基本構想」に基づき、駅周辺道路の整備を進めるとともに、駅西側の新たな改札口に対応するアクセス道路の整備を行っている。また、南海春木駅周辺においても、市道整備を進めるなどインフラ整備を進めている。</li> <li>●丘陵地区の整備推進 丘陵地区「ゆめみヶ丘岸和田」では、みどり豊かな魅力あるまちづくりを目指し、丘陵地区土地整理組合を積極的に支援し、関係機関とも連携を図りながら、引き続き企業誘致や市有地の売却を進めている。また、住宅用地については、丘陵地区区画整理組合や住宅メーカー、住宅販売業者と連携・協力し、完売に向け、広報活動などに努めている。一方、自然保全エリアでは、伐採竹林等の有効活用による地域振興や、アドプトフォレスト活動など民間企業と連携した里山再生を図り、自然環境の保全に努めている。</li> <li>●港湾振興の充実 岸和田旧港地区と地蔵浜地区の施設について、国から「みなとオアシス岸和田」としての登録を受け、新たな臨海部の賑わいづくりを進めている。また、「木材コンビナート」の活性化に向けて、貯木場の周知に努めるとともに、遊休水面の利活用に向け、大阪府と連携しながら、様々な事業者と積極的な働きかけを行っている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●丘陵地区においては、商業施設の企業誘致や地域との連携を促進することにより、まちの魅力を高める必要がある。また、引き続き関係団体との協議を行い、官民一体となってまちを育て、今後の公共施設の維持管理や地域活性化を進めていく必要がある。</li> </ul>

**基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する**  
**目標が達成された姿(1) 多彩な地域特性を活かした景観や拠点が形成されている**

**目指す成果 ② 良好な景観が形成されている**

▶ 景観に配慮した良好な街並みが形成され、快適な住環境が形成されています。

成果の達成度を測る指標

指標名		単位	基準値	経過値			目指そう値
A	景観がよく保全されていると感じている市民の割合	%	19.7 (2018)	20.3 (2019)	22.5 (2020)	(2021) (2022)	19.7 (2022)

行政の役割分担の方向性	事務事業名(2019)	担当部(2019)	担当課(2019)	関連指標	関与の割合
ア 良好な景観の形成を推進する	景観形成事業	まちづくり推進部	都市計画課	A	A
	景観形成市民団体支援事業	まちづくり推進部	都市計画課	A	A

目指す成果に係る経費		単位	2017	2018	2019	2020	2021
総コスト		千円	20,127	23,985	21,214		
事業費		千円	1,064	1,447	1,073		
人件費		千円	19,063	22,538	20,141		

目指す成果に係る現状と課題

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岸和田らしい景観の形成 「岸和田らしさ」が感じられる景観を形成するために、市民・事業者・行政が、総合的かつ多面的に互いの立場を理解しながら協力し、優れた景観をつくり、守り、育む取組を進めている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住み良い文化的で潤いのある美しいまちを創出するため、啓発事業や情報発信を充実させるとともに、引き続き景観形成市民団体の活動を支援する必要がある。また、今後も継続して景観資源の改善や保全に努める必要がある。</li> </ul>

## 目指す成果 ① 市内の移動がスムーズにできている

▶ 交通渋滞などがなく、安心してスムーズに目的地に行くことができます。

## 成果の達成度を測る指標

指標名	単位	基準値	経過値					目指す値
A 市内をスムーズに移動できていると感じている市民の割合	%	34.1 (2018)	33.3 (2019)	36.1 (2020)	(2021)	(2022)	39.1 (2022)	
B 都市計画道路の整備率	%	55.5 (2017)	55.5 (2018)	55.8 (2019)	(2020)	(2021)	58.6 (2021)	
C 市内で運行されているバスの1日平均乗車人数	人/日	3,612 (2017)	3,298 (2018)	3,159 (2019)	(2020)	(2021)	4,100 (2021)	

行政の役割分担の方向性	事務事業名 (2019)	担当部 (2019)	担当課 (2019)	関連指標	関与の度合
ア 市内幹線道路の整備を進める	街路事業用地管理事業	建設部	建設管理課	A	C
	岸和田港福田線整備事業	建設部	高架事業・道路整備課	A・B	A
イ 広域幹線道路の整備を推進する	広域幹線計画事業	まちづくり推進部	市街地整備課	A	A
ウ 自動車駐車対策を推進する	自動車駐車対策事業	建設部	建設管理課	A	A
エ 踏切渋滞の解消に取り組む	JR阪和線東岸和田駅付近高架化事業	建設部	高架事業・道路整備課	A	A
オ 市道を適切に管理する	道路管理事業	建設部	建設管理課	A	A
	道路新設改良事業	建設部	高架事業・道路整備課	A	A
	橋りょう維持事業	建設部	高架事業・道路整備課	A	A
	道路維持事業	建設部	高架事業・道路整備課	A	A
	橋りょう新設改良事業	建設部	高架事業・道路整備課	—	
カ 公共交通機関を利用しやすい環境づくりを進める	交通政策検討事業	まちづくり推進部	市街地整備課	A・C	A
	バス交通充実事業	まちづくり推進部	市街地整備課	A・C	A
	交通体系調査事業	まちづくり推進部	市街地整備課	A	C
	交通体系調査事業	建設部	建設管理課	A	C

目指す成果に係る経費	単位	2017	2018	2019	2020	2021
総コスト	千円	1,543,057	1,687,380	1,097,090		
事業費	千円	1,354,095	1,494,214	909,788		
人件費	千円	188,962	193,166	187,302		

## 目指す成果に係る現状と課題

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>●泉州山手線の整備推進及び沿道まちづくりの取組 広域幹線である泉州山手線について、府により本市区間を先行して事業着手されるよう、地元地域の協力のもと、引き続き沿線の拠点となる3地区において区画整理事業調査等のまちづくり手法の検討を進めている。併せて、泉州山手線の整備とまちづくりの進捗に合わせて、泉北高速鉄道の延伸に向けた検討を進めている。</li> <li>●「岸和田市交通まちづくりアクションプラン」の推進 交通とまちづくりとの一体的な取組を進めるため、「岸和田市交通まちづくりアクションプラン」に基づき、その「将来都市像」の実現に向けて取り組んでいる。特に、泉州山手線の整備による新たな交通の軸の形成に合わせた拠点整備と公共交通の導入に取り組む。また、地域ニーズにきめ細やかに対応した持続可能な新たな公共交通機関として、地域バスの導入に向けた検討を行っている。</li> <li>●JR東岸和田駅周辺道路の整備 地域の交流・発展へと繋げるため、引き続きJR東岸和田駅周辺道路の整備を進めている。</li> <li>●道路・橋りょう等の維持保全と施設改修 市民の安全な通行を確保するため、道路施設の破損などの補修及び修繕を迅速に行うとともに、街路樹の剪定などの適正管理を実施している。さらに、持続的な安全性・信頼性を確保するため、道路舗装及び橋りょうの老朽化への対応を計画的に実施している。</li> <li>●岸和田港福田線の整備 臨海部と丘陵地区のアクセスネットワーク機能の向上につながる、岸和田港福田線（田治米畑町線から包近流木線）の整備を実施している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路構造物等の老朽化が進んでいるため、予防保全的な点検等により不具合箇所を早期に発見し、修繕作業を行う必要がある。</li> <li>●人口減少によりバス利用者が減少しバス路線の維持が困難になってきている一方で、高齢化により公共交通の充実が求められるなど、交通政策を取り巻く社会情勢は大きく変化しているため、公共交通ネットワークの拡充と利便性の向上に取り組む必要がある。</li> </ul>

**基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する**  
**目標が達成された姿 (3) 1年中を通じて多くの人が岸和田を訪れ、市民と交流している**

**目指す成果 ① 地域の中で多文化共生が行われている**

▶ 国籍や居住地などにかかわらず、多くの人が活発な交流を通じ、相互理解が進んでいます。

成果の達成度を測る指標

指標名		単位	基準値	経過値			目指そう値
A	国際化が進んでいると感じている市民の割合	%	11.5 (2018)	11.9 (2019)	11.7 (2020)	(2021) (2022)	11.5 (2022)
B	多文化共生事業への参加者数	人	379 (2017)	470 (2018)	666 (2019)	(2020) (2021)	450 (2021)

行政の役割分担の方向性	事務事業名 (2019)	担当部 (2019)	担当課 (2019)	関連指標	関与の度合
ア 関西国際空港を活かしたまちづくりを進める	関西国際空港推進事業	総合政策部	企画課	A	A
イ 国籍を越えて互いを理解するための機会や場をつくる	国際化推進事業	魅力創造部	文化国際課	A・B	A
	国際交流事業	魅力創造部	文化国際課	A・B	A
	国際交流団体支援事業	魅力創造部	文化国際課	A	A

目指す成果に係る経費		単位	2017	2018	2019	2020	2021
総コスト		千円	16,136	12,035	16,499		
事業費		千円	8,302	4,415	7,433		
人件費		千円	7,834	7,620	9,066		

目指す成果に係る現状と課題

現状	●国際交流の活性化 姉妹・友好都市間での青少年やスポーツ、文化交流等を実施するとともに、国際交流団体への支援を行っている。
課題	●国際交流団体の自主性を尊重しつつ、活動を継続していくための側面支援に努める必要がある。

## 市民が観光資源に親しみ、多くの観光客でにぎわっている

▶ 岸和田市の魅力をアピールすることで、多くの人を呼び込み、活発に交流が行われています。

成果の達成度を測る指標

指標名		単位	基準値	経過値			目指す値
A	岸和田が多くの観光客でにぎわい、観光の振興が十分な状態であると感じている市民の割合	%	13.7 (2018)	11.4 (2019)	15.1 (2020)	(2021)	(2022) 18.7
B	1年間の主要観光施設及びイベント等への観光入込客数	万人	295 【76】 (2017)	271 【65】 (2018)	240 【71】 (2019)	(2020)	(2021) 321 【95】 (2021)

行政の役割分担の方向性	事務事業名 (2019)	担当部 (2019)	担当課 (2019)	関連指標	関与の割合
ア まちづくり観光を推進する	観光振興事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	岸和田城周辺整備基金積立事業	魅力創造部	観光課	—	
	岸和田城管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	岸和田城指定管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	五風荘指定管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	だんじり祭支援事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	だんじり会館管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	だんじり会館指定管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	牛滝温泉やすらぎ荘管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	観光振興計画推進事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	城周辺整備計画推進事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
イ 広域観光を推進する	広域観光事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
ウ 観光客の受入れ体制を整える	観光案内所管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	観光案内所運営事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	元睦会館管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	二の丸広場観光交流センター管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	二の丸広場観光交流センター指定管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	公衆便所管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	駐車場管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	市営駐車場指定管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	B
	まちづくりの館管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C
	まちづくりの館指定管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	A
	観光案内板等管理事業	魅力創造部	観光課	A・B	C

目指す成果に係る経費	単位	2017	2018	2019	2020	2021
総コスト	千円	265,864	329,931	281,385		
事業費	千円	237,749	299,534	248,193		
人件費	千円	28,115	30,397	33,192		

## 目指す成果に係る現状と課題

現状

- 「第2次観光振興計画」の推進  
「第2次観光振興計画」に基づき、観光振興協会や商工会議所等の関係団体と連携し、観光振興を推進している。
- 広域観光の充実  
一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューローとの連携を主軸に、関係自治体や関係団体と一体となり、民間活力を活かした観光地経営の視点から「稼ぐ力」を構築し、地域の観光産業の成長を図り、もって地域の文化の創造、人材の育成、地域経済の発展に取り組んでいる。
- インバウンド観光の受入れ環境の醸成  
事業者をプロポーザル提案方式により選定し、岸和田城の文化・観光資源を活用して、外国人旅行者を戦略的に誘致する事業を実施している。また、旅行者によるSNSなどを通じた本市の魅力の発信とともに、本市の岸和田城の紹介ページ等の多言語化にも着手するなど、情報発信の強化を図っている。
- 牛滝温泉やすらぎ荘の民間活用  
山間部の貴重な観光資源である牛滝温泉やすらぎ荘を、民間事業者による設置・運営とし、これまで以上に民間活力を活かすことで、さらなる集客を目指している。
- だんじり祭のブランド化の推進  
地域資源である「だんじり祭」の運営を側面・後方から支援し、観光客の受入れ体制を充実させるとともに、だんじり文化を活用した体験プログラムを開発することで、「だんじり祭」のブランド化に取り組んでいる。

課題

- 本市にはだんじり祭以外にも岸和田城や五風荘などの観光資源があり、「岸和田ならではの価値」を磨き上げ、外向きに発信していくことで認知度の向上に取り組む必要がある。また、外国人観光客を誘致するための取組を進める必要がある。

**基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する**  
**目標が達成された姿 (4) 経済活動が活発に行われている**

**目指す成果 ① 多様な資源を活かしあい、市内の事業所に活気がある**

▶ 岸和田が有する資源を効果的に活用し、市内の事業所活動が活発に行われています。

成果の達成度を測る指標							
指標名	単位	基準値	経過値				目指す値
A 商工業に活気があると感じている市民の割合	%	7.4 (2018)	8.1 (2019)	10.6 (2020)	(2021)	(2022)	8.8 (2022)
B 年間商品販売額	億円	3,152 (2016)	- (2017)	- (2018)	未公表 (2019)	(2020)	3,152 (2020)
C 市内の従業員4人以上の製造業事業所の製造品出荷額等	億円	2,369 (2017)	2,450 (2018)	- (2019)	2,473 (2020)	(2021)	2,369 (2021)
D 市内民営事業所数	事業所	7,262 (2016)	- (2017)	- (2018)	未公表 (2019)	(2020)	7,300 (2020)
E 市内民営事業所就業者数	人	63,157 (2016)	- (2017)	- (2018)	未公表 (2019)	(2020)	64,000 (2020)

行政の役割分担の方向性	事務事業名 (2019)	担当部 (2019)	担当課 (2019)	関連指標	関与の度合
ア 地域のポテンシャルを活かした取組が行える環境を整える	企業経営支援事業	魅力創造部	産業政策課	A・B・D	A
	産業会館管理事業	魅力創造部	産業政策課	A	C
	産業会館指定管理事業	魅力創造部	産業政策課	A	B
	産業会館使用料還付事業	魅力創造部	産業政策課	-	
	産業振興事業	魅力創造部	産業政策課	A・B・C	A
	商工業振興事業	魅力創造部	産業政策課	A・B・D	A
	岸和田ブランド事業	魅力創造部	産業政策課	A	A
	創業支援事業	魅力創造部	産業政策課	A・B・D	A
	岸和田市産業振興基金積立事業	魅力創造部	産業政策課	-	
イ 既存企業の地力アップを支援する	中小企業支援事業	魅力創造部	産業政策課	A・B・D	A
ウ 企業誘致と流出防止を推進する	企業立地促進事業	魅力創造部	産業政策課	A・D・E	A

目指す成果に係る経費	単位	2017	2018	2019	2020	2021
総コスト	千円	168,658	344,013	207,869		
事業費	千円	146,423	324,605	190,199		
人件費	千円	22,235	19,408	17,670		

目指す成果に係る現状と課題	
現状	<p>●市内企業の経営力向上 市内で創業する人に対して、初期投資の支援を行うほか、商工会議所や地域金融機関と連携した継続的な創業支援に加え、市内の中小企業や小規模事業者に対しては、販路開拓、人材獲得・育成及び技術力向上のための支援を行い、経営力向上を図っている。また、岸和田ブランドについては、引き続き市内の優れた産品を追加認定するとともに、情報発信や販売促進の強化に努めている。</p> <p>●企業立地の促進 岸之浦町の阪南2区整備事業推進事業用地である市有地の売却を進めながら、阪南2区第1期保管施設用地の残区画の企業誘致を早期に進めるため、大阪府と密に連携するとともに、臨海部の既存企業に対しては助成制度により引き続き支援している。また、JR東岸和田駅前への立地が決定しているホテル事業者と防災や観光等の連携協定を締結し、本市への観光客の取込みや産業の活性化、雇用の促進など、あらゆる分野で協力体制を築き、市全体の活性化に繋げている。</p>
	<p>●岸和田ビジネスサポートセンター (Kishi-Biz) について、関係団体と連携し効果的に運営することで、事業者への経営相談の質的向上を図る必要がある。</p> <p>●岸和田ブランド事業では、認定事業者の売上拡大と本市の知名度向上のため、効果的なPR方法を探しつつ、新たな認定品を発掘する必要がある。</p>

基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する  
 目標が達成された姿(4) 経済活動が活発に行われている

目指す成果 ② 身近に利用できる商業施設があり、にぎわっている

▶ 身近になじみのある商店があり、地域のふれあいの場となって活気があります。

成果の達成度を測る指標

指標名		単位	基準値	経過値			目指そう値
A	地元の商店や商店街で頻繁に買物をする市民の割合	%	39.7 (2018)	40.8 (2019)	41.4 (2020)	(2021) (2022)	39.7 (2022)
B	小売業年間販売額数	億円	1,537 (2016)	- (2017)	- (2018)	未公表 (2019) (2020)	1,537 (2020)
C	小売業の商店数	店	1,116 (2016)	- (2017)	- (2018)	未公表 (2019) (2020)	1,116 (2020)

行政の役割分担の方向性	事務事業名(2019)	担当部(2019)	担当課(2019)	関連指標	関与の割合
ア 商業施設の活性化に向けた取組を支援する	商店街等活性化事業	魅力創造部	産業政策課	A・B・C	A
	緑の街角ひろば管理事業	魅力創造部	産業政策課	A	C
	商業共同施設整備助成事業	魅力創造部	産業政策課	A	A
	プレミアム付商品券事業	魅力創造部	産業政策課	-	

目指す成果に係る経費	単位	2017	2018	2019	2020	2021
総コスト	千円	8,673	5,239	235,739		
事業費	千円	4,132	3,191	210,620		
人件費	千円	4,541	2,048	25,119		

目指す成果に係る現状と課題

現状	●商店活性化やにぎわいの創出 身近になじみのある商店があり、地域のふれあいの場所となるよう、施設維持の支援や協働によるイベントの開催支援などを実施している。また、安心安全な商店街を目指し、街路灯や防犯カメラの設置のための支援を行っている。
課題	●商店街について、安全性及び利便性を高め、市民等が安心して買い物ができるよう、環境整備を図る必要がある。